

外国人無料検診に協力を

静岡市で「外国人のための無料健康相談と検診会」を運営する実行委員会（榎本信雄代表）が、検診会の経費確保に苦しんでいる。11月の検診会開催は決まったものの、約40万円かかる経費確保の見通しがたたない状況だ。



外国人無料検診会に向けて募金の協力を呼び掛ける関係者ら―静岡市葵区

静岡市内

経費不足…実行委呼び掛け 11月の開催目指す

医師や看護師、通訳など100人を超えるボランティアが当日の運営を支えるが、経費の捻出（ねんしゅつ）は深刻な課題。調査項目を減らして経費削減を図ったり、チャリティーイベントや街頭募金、寄付などで賄っているのが現状という。

検診会は1998年、「言葉が通じない」「保険に入っていない」「保険の理由から、医療サービスを受けられない外国人を対象に始まった。母国語を使って自分の健康をチェックする機会を提供している。

昨年は14カ国約100

人の外国人が受診した。約130人のボランティアが尿検査や身体検査をはじめ内科や小児科、歯科など各診療科の相談、栄養相談や保険相談などを受け付けた。回を重ねる度にリピーターも増えているという。

榎本代表は「多文化共生社会の実現に向け、日本でも暮らしやすい外国人が日本人と同じように医療サービスを受けられる環境づくりのために継続的に開催したい」と話している。

実行委は検診会経費の寄付を募っている。問い合わせは実行委（電054（209）5682）

静岡新聞

2010. 7. 31